
あなたへ～12・1・45・1・12～

赤田サチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたへ 12・1・45・1・12

【Nコード】

N9980C

【作者名】

赤田サチ

【あらすじ】

各話、異なつた人物の一人称です。ある人物に対する思いを語ってくれちゃってます。タイトルにある数字は一応暗号です。くだらないですが……。

FILE 01：シェリーのコート

工藤君……、あなたと出逢って、どのくらい経つのかしら。本当に助けられているわ、彼には。行動で、言葉で、心で。工藤君にはこんな事直接言えないけれど、感謝しているのよ。

正義の塊のような工藤君と、それと正反対の私。“死”の空間にいる私に、彼は知らず知らずのうちに手を差しのべて、私を“生”の空間へと導いてくれる。

……そうね、工藤君は本当に太陽のようだね。知ってるでしょ？
「太陽と北風」の話。旅人のコートを脱がそうと、どんなに北風が頑張っても、旅人は脱ぐどころかコートを決して脱ぐまいとさらに押さえる。対して太陽は、その暖かさでいとも簡単に旅人のコートを気持ちよく脱がせる。人もこれと同じね。冷たい心で人の心を無理矢理こじ開けようとしても、その人は余計に心を閉ざす。温かい心で接すれば、人は自然と心を開く。……私も同じ。彼は太陽で、私は旅人。まんまとコートを脱がされているわ……。シェリーという名の黒いコートをね。

そんな工藤君と出逢えたことは、偶然だったのかしら……それとも必然だったのかしら。彼は、私となんか関わりたくなかったかもしれないけれど……。例え彼が迷惑だと思おうが、こっちは有り難く思っているのよ。

今、この黄色いビートルから見える景色の一コマーコマが、次々と私の横を去ってゆくように、私に許とされている時間も次々と過ぎ去ってゆく。その中で、工藤君に出逢えたということが大切なのであって、それが偶然か必然かなんてこと、愚問だわ。こんなの何の問題にもならないわね。

ほら、この世には“逃げるが勝ち”なんて言葉あるけれど、私はこの言葉どうかと思うわ。……いいえ、工藤君や工藤君の周りの人に出逢って何か気付かされるまでは、私はこの言葉を象徴するような人間だった。こう考えると、私も少しは成長したのかしら？　なんてね。あなたの頭の中には、“逃げるが勝ち”なんて言葉、ないのかもしれないわね。

……私はもう逃げないわ。工藤君、あなたの言う“運命”から。

『逃げてばっかじゃ勝てないもん』

これを言った本人より十年以上も生きている私が教えられたわ。……私の周りは、本当に興味深い人達ばかりね。

外の暗さがさっきよりも増してる。もうすぐ夕飯の時間だわ。工

藤君は大切な恋人さんにおいしいご飯を作ってもらうのかしら？
私もこのお腹をすかせた博士さんに、とっておきの料理を作ってあげなくちゃね。そう、彼にピッタリの。彼はありがた迷惑って感じみたいだね。……さあ、この車から降りたら、早速取りかかりましょうか。

ねえ、私もう一度きちんと約束するわ。

自分の運命から逃げない……と。

FILE 01：シェリーのコート（後書き）

哀の一人称でした。

FILE 02:どうしても知りたい

……ねえ、僕はあの子を見ているといつも思っんだよ。本当に不思議な子だなあって。名前もそうだけれど、警察である僕たちを凌ぐ推理力を持つ小学生。なんでも知っている、知識豊富な小学生。不思議で堪らない。何だか頼りがいがあるんだよねあ、コナン君は。

……って大人の僕がこんなことを言っていちゃいけないのだけれど。

そして、未だに佐藤さんの前でドギマギしているような僕なんかより、いつも堂々としていて余裕たっぷりなコナン君のほうが遥かに大人なような気がして。……いや、コナン君も大きくなって恋をすれば平常心でいらなくなる日が来るのかな。こう考えていると僕はコナン君に嫉妬しているのかな。自分よりも大人のような小学生に。もしコナン君が、今僕と同じくらいの歳だとしたら……

その君のことを佐藤さんが知っているとしたら……

僕に勝ち目はないような気がする。こんなありもしないことを考えて、一人で落ち込んでも馬鹿馬鹿しいんだけどね。

今、佐藤さんが僕の隣で僕の方を見て微笑んでいる。僕が今、小学生に対して嫉妬心を燃やしていたなんて夢にも思わないだろうな。もしそれを知ったら佐藤さん……あなたはどう思うでしょうか。呆れる？ 不思議がる？ それとも納得してくれるでしょうか？

今僕の目に映っているこの建物を見ると思い出すあの事件。この広いようで狭いような都会に、犇めき合うように聳え立つ無数のビルの中、一際目立つこの街のシンボル。真っ赤になつて自分を主張する“東都タワー”。

ここであつた爆弾事件でも、どこまでも冷静だつたコナン君。危険な爆弾を解除し、暗号を解いて大勢の人の命を守つた彼の姿は、とてつもなくカッコ良かった。僕がこうして生きていられることは、今でも奇跡だと思っているんだ。あの時、助かる命は、僕等が学校にいる彼等のどちらか一方だけだと思つていたからね。その考えを、小学生のコナン君が覆した。

……不自然だと思つた。だから思わずコナン君に聞いてしまったんだよ。

『君はいつたい何者なんだい？』

あの事件で初めて思つたことじゃない、前々からずっと疑問に思つていたことだつた。コナン君が何て返してくれるか、ドキドキしていた。

『知りたいのなら教えてあげるよ……あの世でね』

これがコナン君、彼から返ってきた言葉。

……コナン君には、秘密を教えて死ぬ気など、更々無かつたんだろ
うね。死なない自信があつたからこそ、その大切な秘密を教えてく
れなかつたんだろう？

僕は、コナン君がただの小学生とは思えない。

……僕にもう一度、質問するチャンスをくれないかい？

……今度はあんなに追い詰めてられた時間ときじゃない、ゆっくりと流
れる時間じかんの中で。

僕は知っていたんだ……。

だから教えてくれないか……。

君はいつたい何者なんだい？

FILE02:どうしても知りたい(後書き)

高木刑事。

テスト直前です。ヤバいです。第三話は、この恐怖の行事が終わり次第頑張りたいと思います。

FILE03：私のイノリ（前書き）

テスト終了です。ハア（＊、、）＝

十二月四日、少し修正しました。あまり修正されていないかもですが……。修正前よりも子どもっぽくなっている……といいです。（願望）

FILE 03：私のイノリ

コナンくん、あなたがね、転校してきたとき、わたし思っただ。

“この人がわたしの運命の人だ”って。……なんでって？ そんなのわたしにもわからないけれど、でもそんなふうに思っただよ。……ほら、よく言うでしょ？ 女のカンってヤツ。……こんなカッコいい人が運命の人ならいいななんておねがいもあっただけ。

コナンくんは見ためどおり、スポーツもできて、頭もよかった。

それだけじゃ、そういう男の子はいっぱいいるけれど、わたしがコナンくんと時間をいっばいすごすようになって、この人はほかの男の子とは何かちがうって思っただ。

……スポーツができて、頭もよくて、たよりがいがあって、やさしくって、大人っぽくて。泣き虫なわたしを守ってくれる。どんなときだって守ってくれるんだ。

でもね、ときどきコナンくんをすごく遠くに感じるんだ。なんだかすごく遠くにいる人のような感じがしちゃう。哀ちゃんとコナンくんが一緒にいて二人で何か話しているときとか、わたしには分からないむづかしいこと話している気がする。ほら今も。わたしの後ろで話す二人からは何かちがうかんじがするんだもの。

それに、わたしと哀ちゃんに話すときのコナンくんのかんじがちが

う。これははつきり分かるもん。

あなたにとって、わたしは妹みたいなふうにしかなえないのかな？
テレビで見る恋人とかとはちがう。わたしは妹でしかないの？

どうして？ どうして？

わたしがまだ赤ちゃんみたいだから？ もっとお姉さんにならなきゃいけないのかな？ コナンくんはもっと大人っぽい女の人が好きなのかな？ 蘭お姉さんも年上の女の人だし、そういえば哀ちゃんも大人っぽいもんね。

わたしは妹じゃイヤだ。哀ちゃんよりも、蘭お姉さんよりも大人っぽくなれるようにがんばるから。守られてばかりじゃ大人にはなれないから、だからコナンくんもたよってくれるような大人の女の人になるから。

……わたしだけを見てよ。

わたしはぜいたくかもしれないな。コナンくんはいつだってわたしを守ってくれるのに。まだこうやってわがままを言っちゃうんだも

ん。

……がまんします。これが叶うならどんなことだってがまんする。
お母さんに洋服買ってとか、おもちゃ買ってとか、お父さんにここ
連れてってとか言わない。約束します。

だからかみさま、おねがいします。

あの人^がわたしのことだけを見てくれますように。

あの人が好きで女の子になれますように。

運命の人があの人でありますように。

おねがいがかんがえようように、
かんがえられないように、
わたしはイノリま
す。

FILE 03：私のイノリ（後書き）

歩美ちゃんでした。これ一番ダメな気がします……。ごめんなさい、本当に……。歩美ちゃんを書くにあたって、いろいろと不都合な点が沢山……。こんなんでも読んで下さり本当に有難う御座いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9980c/>

あなたへ～12・1・45・1・12～

2010年10月28日03時19分発行